

今月の星空

2月 (2026年)

中旬 20 時頃

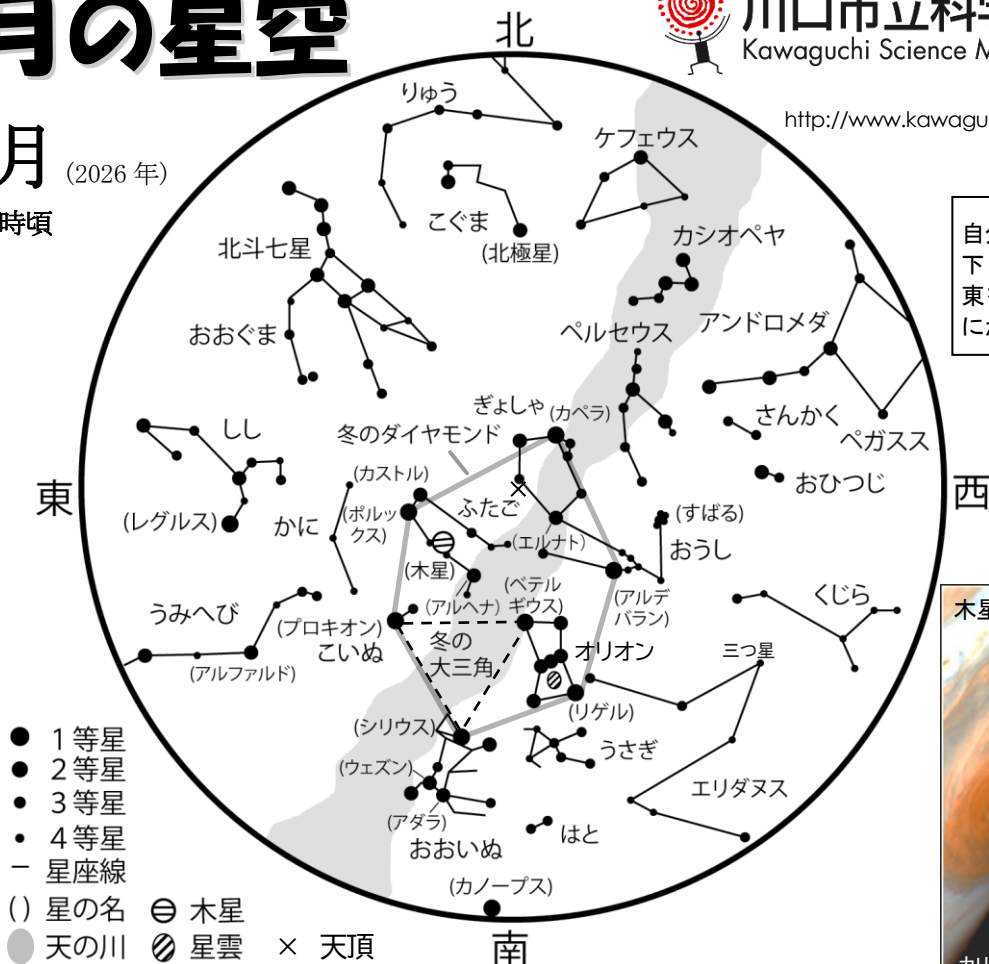


川口市立科学館
Kawaguchi Science Museum



tel 048(262)8431

<http://www.kawaguchi.science.museum/>



星図の見方
自分が見ている方角を
下(東の空を見るときは
東を下)にして、頭の上
にかざして見ます。



木星とガリレオ衛星(合成)
提供: NASA/JPL/DLR

月 齢 ○ 満月 2 日、● 下弦 9 日、● 新月 17 日、● 上弦 24 日

惑星情報 水星 日の入後 西(みずがめ→うお座 -1→0等)※16日~23日頃

木星 夜のはじめ頃 東(ふたご座 -3→-2等) 土星 夜のはじめ頃 西(うお座 1等)

☆冬のステップアップ星座探し

夜のはじめ頃からオリオン座が南の空に昇り、冬の星座を見つけやすい時期になりました。まずは、明るい星が多いオリオン座や冬の^{じゅう}大三角から見つけましょう。範囲を広げて、6つの1等星がつくる冬のダイヤモンド(星図参照)を数珠つなぎにたどると、代表的な冬の星座の位置がつかめます。さらに一歩進んで、星座一つひとつをつなげられるように、見つけた1等星の周囲にある2~3等星にも目を向けてみましょう。以下はその一例で、明るめの見つけやすい2等星です。星図を見ながら探してみてください。

- ・エルナト (1.7等、おうし座) …おうしの角の星であり、また、ぎょしゃ座の五角形の一角でもある。
- ・アルヘナ (1.9等、ふたご座) …ふたごの足元にある星。ポルックスとベテルギウスの中間に見える。
- ・ウェズン (1.8等) とアダラ (1.5等、共におおいて座) …シリウスの下方で二つの星が並ぶ。

☆注目を集める木星の四大衛星~衛星の内部には海があるのか!??~

今シーズンの冬の夜空で圧倒的な存在感を放つ木星。その木星には70以上の衛星が確認されています。そのうち、小型望遠鏡でも観察できる四大衛星——イオ、エウロパ、ガニメデ、カリストは「ガリレオ衛星」と呼ばれます(右上の図参照)。主に氷や岩石でできたこれらの衛星のうち、イオを除く3つの衛星の内部では、氷が溶けて液体の海が広がっている可能性が指摘されています。そのような衛星たちを詳しく調べるため、2023年4月にはESA(欧州宇宙機関)が主導し、日本も参加する木星氷衛星探査機「JUICE」が、2024年10月にはNASAの探査機「エウロパ・クリッパー」がそれぞれ打ち上げられました。前者は2031年、後者は2030年の木星系への到着を目指し、宇宙空間を飛行中です。

☆3月3日、条件の良い皆既月食を見よう

3月3日は皆既月食が起こります。今回は多くのかたが観察しやすい時間帯(19時前~22時過ぎ)に起こる好条件の月食です。今後、日本で見られる月食は、2028年7月7日(部分)、2029年1月1日(皆既)としばらく起こりませんので、この機会にぜひ観察してみてください。当日のスケジュールや観察場所(月は東側の空に見える)を事前に確認しておきましょう。当館でも特別観測会(要事前申し込み)を行う予定です。詳しくは科学館ホームページ(右上のQRコード等でアクセス)でご確認ください。